

県民の意見を聞く会の概要

1 目的

新岡山県環境基本計画の見直しに際し、県民の意見を反映させるため、県民局毎に、地域の住民・事業者・民間団体等と意見等を交換する会を開催する。

2 実施予定一覧

エリア	実施日	会場	参加人数	備考
備前	8/ 8(水) 13:30~15:30	県立図書館	13名	
備中	8/22(水) 13:30~15:30	玉島市民交流センター	11名	倉・笠・総・浅・早・里
	8/23(木) 13:30~15:30	高梁市文化交流館	9名	井・高・新・矢
美作	8/29(水) 13:30~15:30	津山文化センター	12名	

3 出席予定者

(1) 県側

- ・環境文化部次長、環境文化部関係課室長、県民局環境課長等

(2) 県民代表者

- ・地元市町村からの推薦者等

4 その他の開催

(1) 岡山大学エコミーティング

- ・若者の意見を聞くために、環境分野を学んでいる学生を対象に実施する。
- ・日時：平成 24 年 8 月 2 日（木）16:15~17:45
- ・場所：岡山大学環境理工学部 422 演習室

(2) 水島 E S I 会

- ・産業が集積している水島地区における環境安全に関する情報交換会である水島 E S I 会（地域の企業 11 社が参加）において、企業の意見を聞くために実施する。（意見の締め切りは 8 月末）
- ・日時：平成 24 年 8 月 9 日（木）10:00~10:45
- ・場所：旭化成ケミカルズ（株）水島製造所 講堂

県民の意見を聞く会(岡山大学)意見一覧

全般	基本1	基本2	基本3	基本4	推進1	推進2	内容	番号
	○		○	○	○		本県のバイオマスツアーは全国からも注目されているが、県民にあまり知られていない。県民が里山とふれあう機会として取組を進めてほしい。	1
	○		○				低公害車を増やすより自転車や公共交通機関の利用を促すべき。	2
	○		○				路面電車のエリアが狭い。もっと路線が必要である。	3
	○		○				バスの経路等がわかりにくい。	4
	○		○				公共交通機関に、敬老パス(割引制度)を導入してはどうか。	5
	○		○				県(市)営のバス・地下鉄等を導入することで、公共交通網を整備してはどうか。	6
	○		○				「めぐりん」のような一律運賃のバス路線を拡大できないか。	7
	○		○				佐賀市の市営バスは、毎週ノーマイカーデー割引に取り組み利用促進を図っている。岡山でも何らかのキャンペーンができないか。	8
	○		○				路面に凹凸があり、自転車が乗りにくい。	9
	○		○				自転車専用道路が少ない。もっと整備すべきである。	10
	○		○				自動車の利用抑制だけでなく自転車の利用促進をしてはどうか。	11
	○		○				岡山市街地は、自転車が通行しにくい。専用道の整備などで環境を整えるべき。	12
	○		○				自転車通勤を促進することで、市街地の自動車を減らし渋滞緩和に繋がる。	13
	○		○				自転車専用レーンを整備しても自動車の駐車のため、かえって危険になっている場合がある。自転車マナーの向上も必要だが、自動車の駐車対策も必要である。	14
	○		○				エコドライブ宣言の登録後に、実践できたかを評価・確認をするべきである。	15
	○				○		省エネの意識は高まっているが、実践例を知らない方が多い。具体的な方法を県民に説明する機会を増やすことで、省エネ実践の環境整備がなされる。	16
	○				○		省エネは、ライフスタイルの改善を図らなければ、削減幅は少ない。エコドライブ教室に限らず、生活に生かせることができる取組を発信できるイベントを実施すべきである。	17
	○					○	今の世代に負担がかかっても、将来のためにエネルギー転換は必要である。	18
	○						太陽光発電の設置勧誘は電話や訪問で行われている。また、用いられる資料は信頼性が低い、県が各社の比較分析した資料を県民に提供してはどうか。	19
	○						太陽光発電の住宅への設置を義務化してはどうか。	20
	○						メガソーラーより、住宅用太陽光発電の方が、施工管理を県内企業が実施できるため地域への貢献度は高いと考える。	21
	○						省エネや節電が叫ばれているが、効率よく実行できている施設がどれほどあるかが疑問である。具体的な実施方法等を専門的な観点から紹介し普及啓発を図るべきである。	22
	○						電気自動車の普及を図るために、充電スタンドを設置するとともに、購入時の税金を免除するなどの補助をしてはどうか。	23
		○	○	○			海岸は不法投棄や漂着物等で汚れている。地域住民だけでなく大きな規模での美化活動が必要である。	24
		○	○				島の高齢化や利用者等によるごみ問題で存続が危うくなりつつある海岸もある。行政が何らかの働きかけをしてほしい。	25
		○			○		(循環型社会の形成)掲載されている重点プログラムの内容はあまり知られていない。もっと広報すべき。また、具体的に実行しようとしている動きがあまり感じられない、県民にまかせきりではないか。	26
		○				○	エコ製品の普及は必要だが、エコだからといって無駄な消費をさせず、本当に必要な製品を選択できるようになるべきだ。	27
		○				○	岡山県エコ製品の認定・公表制度の趣旨はよいと考えるが、環境意識の高い人以外にも利用を広げるためには、具体的な利点(低価格、独自性、利便性)がないといけない。	28
		○					岡山市は、ごみの分別区分が緩い。プラスチックなどもっと分別増やすべきである。	29
		○					事業者は卵パックなどもっと他のものも回収すべき。	30
		○					資源化ごみの回収場所が少ない。少なくとも可燃ごみ等の回収場所では回収すべき。	31
		○					マイバッグ運動は、啓発が不十分である。持参者が直接的なメリットが発生するシステムが必要。	32
		○					マイバッグ運動の推進には、各店舗の任意の取り組みではなく地域全体で有料化等に取り組む必要がある。	33

県民の意見を聞く会(岡山大学)意見一覧

全般	基本1	基本2	基本3	基本4	推進1	推進2	内容	番号
		○					マイバッグ運動は、消費者がそれぞれ断るより、小売り側が一律に配付するのをやめる様な意識改革をした方が速く浸透できる。	34
			○	○	○		児島湖には、年2万羽のカモが飛来していると聞く。地域住民がどれほど理解しているか疑問である。	35
			○	○			児島湖のCODを6mg/lに改善することのメリットを良くわかるように示すべきである。また、現在の水質で十分多くの生物種が生息しているが、何を対象にどこまで改善すべきか示すべきである。	36
			○	○			児島湖周辺に、家族連れが気軽に訪れることができ、生物の採取を楽しんだりヨシ原等に生息している野鳥を観察できるような、駐車場を完備した自然体験公園を造成してはどうか。	37
			○	○			児島湖のCODを6.0mg/lにすることをめざし水質改善を図ることが、野鳥にとって良いことか考える必要がある。	38
			○		○		用水路などの水際に筏等で植栽をすることにより、水質浄化と景観の向上が図れる。また、多くの人の目にとまり環境への意識も高まることから、都市部にこそ、水際の植栽を整備すべきである。	39
			○				瀬戸内海の保全には流れ込む川をまずきれいにする必要がある。	40
			○				児島湖のCODは増減を繰り返している。値を安定させることが大切である。	41
			○				児島湖の代表的な指標に、窒素及びリンを加えるべきである。	42
			○				水質の改善には、相当なコストがかかる。児島湖のCODを6mg/lにするためのコストはどの程度必要か。またその財源があるのか疑問である。	43
			○				現計画のとおり生活排水処理施設の整備促進を進めるべきであるが、家庭での排水の流し方等の指導も同時に進めてはどうか。	44
			○				水質の汚染の約70%が家庭からの生活排水が原因であることを広報し、それぞれが家庭でできることを考え実行する環境を整えよ。	45
				○	○		幼少期から自然とふれあい、自然環境の重要性を理解することは重要である。	46
				○	○		県のレッドデータブックを教育の場で使っていくべきだ。また、適度な更新も必要。	47
				○			自然保護センターの利用を地元メディアを積極的に活用して、個人にも呼びかけるべきである。	48
				○			自然保護センターの一般客の拡大には、雨の日限定のイベントを実施するなどの工夫が必要。	49
				○			家の周りの畑や水田などのみどりは減ってきている。土地利用者と所有者だけでなく住民の意見を取り入れた保全体制はできないか。	50
				○			耕作放棄地の周りには空き家も多いので、それを紹介して地域の保全につなげられないか。	51
				○			美しい棚田など、自然と人の共生の形を残し、地域を活性化させていく方法を検討すべきである。	52
				○			外来生物の拡大を防ぐために、北海道や京都府のように外来生物リストを作成してはどうか。作成に当たっては、野生生物の専門家で構成される委員会に加え、分類群ごとに専門部会を設置するのがよい。	53
					○	○	企業の環境学習への積極的な参加を促すべきである。	54
					○		環境教育で、もっと学生に語りかけるべき。	55
					○		「エコ広場」の整備校は、学生自身が関わる取り組みであり非常によい教育となるため、さらに多くの学校で取り組むべきである。	56
					○		子どもへの環境学習は不可欠だが、エコビジョンでは具体的に何を行っているのか、何をすべきかがわからない。	57
					○		専門知識をもち、深く子どもたちに環境学習を実施できる人材が必要。	58
					○		人の集まるイベント等で、環境学習に対して興味を持てる活動を実施し、環境学習に気軽に参加できる場を提供することが必要である。	59
					○		学校内にエコ広場を整備するだけでなく、一般の方の憩いの場かつ環境学習ができる空間を整備すべきである。	60

県民の意見を聞く会(備前)意見一覧

全般	基本1	基本2	基本3	基本4	推進1	推進2	内容	番号
○							「総花的」にならないよう、重点項目を優先し、実効性のある計画策定及び実践をすべきである。	1
○							循環型社会の形成について、県民総参加で推進することが大事であるので、エコビジョン2020の存在自体を熱くPRすべきである。	2
○							将来の岡山の姿とは、という絵が必要。環境問題を考えるに当たって、みんなの描くビジョンが共通になる必要がある。	3
○							高齢化社会に向けた(施策)指標などがあまり計画に見られない。公共交通の充実や地元の小売店で商品が買えることが必要ではないか。また、地元で野菜を作って消費する地産地消できる姿がこれからの循環型社会ではないか。	4
	○	○					資源ゴミの回収や、生ごみの堆肥化等、小さなことからコツコツと、地球温暖化防止に向けて取り組んでいる。環境問題は目に見えて結果が出ることがない地味な活動であるが、根気強く継続することが大切である。	5
	○		○	○			山は生命の源であり、人間の健康・長寿の基である。長期にわたる環境汚染は自分たちの代で処理しないと、子孫の新たな病気等に繋がる恐れがあると考え。	6
	○		○				公共交通は、都市の将来を描く中心になるものである。	7
	○		○				過疎地域への巡回バスなど公共交通機関の充実を希望する。	8
	○		○				公共交通の利用促進や、吉備線のLRT化などは環境問題に加え、中山間地域の活性化や慢性的な交通渋滞の解消など、地域社会のシステムも改善するものである。	9
	○		○				高齢者等の交通弱者対策について、地域だけでなく全体で考えて欲しい。	10
	○		○				岡山市ではパークアンドバスライドが取り組まれているが、効果は不十分である。その他市町村での取組の状況が知りたい。	11
	○		○				自転車の利用促進のために自転車道整備をしてほしい。	12
	○		○				自転車利用については、まず、市民がマナーを守って率先して使用していく必要がある。	13
	○			○			中山間地域の荒廃が目立つが、地域住民は(必至で)保全のため努力しているが力尽きているのが現状である。里山保全のために子どもたちや学生などが多く参加してくれることを望む。	14
	○			○			安全安心な農業を実施するための育成者の保護と教育が必要。また、農業生産者の意識変革が必要である。	15
	○				○	○	環境家計簿の記帳を基本に、地球温暖化防止策について地域住民や学校・企業等に出前講座等の啓発推進を行っているが、環境家計簿などで経済的なメリットを示すと、皆協力してくれる。	16
	○					○	食べ物もエネルギーも、地産地消が環境にも経済にも好循環をもたらし、地域活性化にも結びつく。バイオマスや太陽光発電についても、地域で取り組むことで活性化に繋がると考える。	17
	○					○	エコアクション21などあるが、複雑さ故に企業の参加が伸び悩んでいる。企業経営にとってメリットのある環境経営の普及を官民あげて推進すべき。	18
	○						アースキーパーメンバースHIPの会員拡大、増加するよう普及啓発を図ってほしい。	19
	○						農業を通じ、異常気象が増加していることを感じている。	20
	○						街灯や公共施設の照明をLED化することが必要。公的機関が推進していけば、民間も必ずついてくる。(器具・電球を交換する際には必ずLED化を)	21
	○						公的施設に太陽光発電を設置すれば、施設の電気代をまかない、かつ余剰電力を販売できるため、実行を考えるべき。	22
	○						以前はCO2削減を考え原子力発電は必要と考えていたが、震災以降考えが変わり、何としても再生可能エネルギーに移行しなければいけないと考えるようになった。	23
	○						水素発電を研究し、夜間の余剰電力を利用した水素発電による発電にしてほしい。	24
		○	○			○	食料品等の宅配販売会社で、牛乳や調味料などすべてリターナブル瓶であり、洗剤なども界面活性剤がないものを積極的に販売している会社がある。そのような取組を行う店舗がもっと多くあればよい。	25
		○	○				不法投棄や生活環境の保全等への対策として、近隣の人に代わって積極的に指導していけるような団体等を作って欲しい。	26
		○	○				竹を利用した生ごみの堆肥化を行い、そのデモンストレーションを実施している。ゴミ対策にも、里山の管理で環境保全にもなる取組である。	27
		○	○				竹を使用した生ごみのたい肥化に向けて、機器(100万円くらい)導入の補助を考えて欲しい。	28
		○			○		環境問題は短時間で成果を出すことは難しいが、ゴミの分別や清掃活動等、取組の成果を感じることで出来る活動は環境問題へ取り組む良いきっかけであり、このような身近な活動が、長期的な環境保全活動へつながっていけばよい。	29

県民の意見を聞く会(備前)意見一覧

全般	基本1	基本2	基本3	基本4	推進1	推進2	内容	番号
		○				○	マイ箸持参運動は、飲食店の企業努力により、持参者へサービスする等を行えば、継続的に実施できるのではないかと。また、それらの行動にはもったいない、という意識を持ってもらうことが必要である。	30
		○					産業廃棄物協会として不法投棄物撤去作業を行っているが、全ての団体が協会に加盟しているわけでないため、根絶は難しい。	31
		○					不法投棄は、捨てた人を見せしめにするのもあっていいのではないかと。	32
		○					山中に安定型処分場を設置されかけて困る問題がよく起きる。豊島のように事前に、皆で良く考えることが必要である。	33
		○					備前市では、資源ゴミの回収拡大、ゴミの減量化のためにゴミの分別を細分化し、紙ゴミや廃プラスチック等も資源として回収している。可燃ゴミの大半は生ごみ、紙ゴミ、プラスチック類と言われており、今後は生ごみの減量が問題となる。生ごみのリサイクルについて、継続可能なシステム作りが必要である。	34
		○					使用可能な粗大ごみ、家電などについて、捨てる理由とともにその物をインターネットで周知し、引き取り手がみつかるようなシステムがあれば良い。	35
		○					行政や事業者だけでなく、県民がしっかり意識できるよう、もったいない運動を推進してほしい。小さなことでも目標設定し、「もったいない」意識を持ちながら行動出来る環境づくりが大切である。	36
		○					生ごみの処理へ向けた大型の生ごみ処理機が必要。民間と行政が連携してはどうか。	37
		○					レジ袋有料化について進めてほしい。和気町では既に実施できていると聞けるが、業者との調整がどうなっているか知りたい。	38
		○					和気町でも実施は100%ではない。ゴミ袋として使いたい人はおり、配ってくれる所に行く場合もある。事業者の方は頑張ってもらって協力してくれている。	39
		○					電子マニフェストが促進が進んでいない。特に導入が遅れている中小企業への促進をしてほしい。	40
			○	○			田んぼにいるはずの種々の昆虫が、農薬等の使用により激減している。	41
			○	○			(吉備中央町でも、)民家の周辺で魚釣りをすると、3匹に1匹は奇形。	42
			○	○			瀬戸内海の保全と再生教育を実施してほしい。	43
			○				界面活性剤を使用しない石鹼・洗剤を公的機関で使用してほしい。	44
			○				アレルギーを持つ子供を減らすためにも、リーフレットを作成し、妊婦への母子手帳配布時に配る等、化学物質の影響を知ってもらうことが大切である。	45
				○			絶滅危惧種は明日の人間の未来を示している。みんなでその意識を共有していき、この豊かな自然を壊さずに子どもたちに渡していきたい。	46
				○			カワウ対策等、有害鳥獣は音で追い払うだけでなく、淘汰していくような方法を取って欲しい。	47
				○			山河等を大切に、美しい自然環境を末永く残していきたい。	48
					○	○	事業者として、環境教育・環境美化等の活動を行っている。厳しい経済状況の中、雇用・業績を維持しながら、今後も環境問題改善への活動をしていきたい。	49
					○		行政や協会が色々と環境問題への対策や取組を考えているが、実施するのは地域である。行政などが本気であることを地域に見せるには、動くことが必要である。	50
					○		自己中心的な現代社会から脱却するための再教育が必要である。	51
					○		子どもへの環境学習は、本人はもとより、親の世代にも影響を与えることが出来ることから重要である。	52
					○		環境リーダーなどの人材育成を積極的にしてほしい。	53
					○		行政がもっと前に出てNPOやボランティア団体、事業者が地域でしっかり連携をとり活動できるよう働きかけて欲しい。	54
					○		落書き除去活動に関する地域への支援を継続してほしい。	55
					○		景観保全について、長期にわたる個人企業の居座りを解消してほしい。	56
						○	エコアクション21について取得に向けた勉強会などを登録業者へ行っている。登録促進をしてほしい。補助制度の復活も考えられる。	57